

発行—2008年8月29日

編集—群馬県大学図書館協議会「会報」編集委員会 前橋市荒牧町4-2(群馬大学総合情報メディアセンター内) TEL.027-220-7178



CONTENTS

■ 新館紹介	2
■ 新人紹介	4
■ 退職者	4
■ 各種研究会・研修会	5
■ 平成19年度 第2回大学図書館研究会報告	6
■ お知らせ・トピックス・編集後記	11
■ 群馬県大学図書館協議会加盟館(平成20年度)	12

新館紹介

◆桐生大学図書館◆

桐生大学図書館のはじまり

桐生大学図書館 吉田 圭吾

平成20年4月1日、4年制大学「桐生大学」開学と同時に「桐生大学図書館」がスタートした。桐生大学図書館は、既存の建物を改築した新しい図書館で、ほぼガラス張りの造りとなっていて、とても開放的な雰囲気がある。それ以外に、今までの図書館との大きな違いを簡単に紹介すると、

1. 閉館時間が18時から20時になった
2. 自由に使えるPCを18台増設した
3. BDSを導入した

といった点が挙げられる。その他、各種電子ジャーナルやデータベースの導入、蔵書管理システムに対応した純正のOPACの導入、NACISIS-CAT/IILLへの参加等、目に見えない部分の

強化も行った。

蔵書については新設の学部に合わせて、主に栄養、看護関連の蔵書を中心に選書した。雑誌もタイトル数が増え、以前と比べ充実のラインナップとなっている。

来館者数については、当初の予想よりも多く、6月に入った段階で、既に昨年の来館者数の半数近くの数値を記録している。このことから図書館の存在を周知することは成功したと考えられる。

しかし、成果が出ているからといって甘んじることなく、より良いサービスを提供できるよう努めていきたい。

図書館基礎データ

蔵書数：約4万冊	雑誌数：約100タイトル
面積：1,344㎡	座席数：300席



図書館建物外観



閲覧室



情報検索コーナー

新館紹介

◆高崎健康福祉大学薬学部図書・資料室◆

平成18年4月、大学の健康福祉学部次ぐ新たな学部として看護学部と薬学部が開学しました。看護学部は短期大学部看護学科を継承し4年制に転換となったため、以前より資料を収集しておりましたが、薬学部については全くの新設であるため、資料の整備なども前年度より進めて参りました。薬学6年制の導入に併せて新設するため、新たに7号館（薬学部棟）が建設され、2階に薬学部図書・資料室が設けられました。本年度からは4階へと移転しています。本学の薬学部は、1学年90名と少人数制を図っており、6学年揃っても540名と全国の薬学部を持つ大学から比べるとより教員と学生との距離も近く感じられるのではないのでしょうか。県内唯一の薬学部の誕生ということで、新設前より多くの方に関心を持って頂いたことと思います。

さて、薬学部図書・資料室についてご紹介したいと存じます。まず本学の図書館は、主に健康福祉学部用の資料を収集している大学図書館、看護学部・短期大学部用の資料を収集している分館、そして薬学部図書・資料室の3館で構成されています。薬学部図書・資料室が2階に設置されていた当初、司書一名で業務を行っておりましたが、3学年まで進んだ現在は4階へと移転し、司書一名を増員致しました。学生の利用も益々増え、さらなる薬学関係資料の収集に努めております。



また、開館時間は当初、午前9時から午後5時までとしておりましたが、要望も多いことから本年度より午後7時までとし、より学びやすい環境づくりを心がけております。

薬学部図書・資料室の設備

面積	128.00㎡
書架収容力	7,000冊
雑誌架	30誌
閲覧席	14席
業務用端末	1台
検索性端末	1台
情報検索性端末	12台
AV機器	2台



蔵書数（2008年4月1日現在）

図書冊数	2,982冊
雑誌種数	45種
※雑誌EJ除く	

現在、薬学部図書・資料室で行っているサービスは、閲覧・貸出・文献複写に限られています。相互貸借及びILLなどの業務は大学図書館に頼っていることから、今後学年が進むにつれ改善が求められることでしょうか。薬学部の設置により本学も電子ジャーナルを導入致しました。導入3年目となった現在、購読タイトルの見直しや、データベース等の希望が寄せられる事があるため、検討すべき課題といえます。

全学年が揃うまでにはもう少し時間がかかりますが、今後は益々、相互貸借・文献複写等でお世話になることが多くなることと思いますので、皆様のご協力をお願い申し上げます。

新人紹介

◆大学図書館に赴任して

高崎健康福祉大学薬学部図書・資料室

松下 瑞恵

4月より、高崎健康福祉大学薬学部図書・資料室に勤務しています。昨年は公共図書館で働いていました。同じ図書館とはいえ、分野が全く違いまさに専門図書館であることと、務める司書の在り方に驚きました。この学校は福祉や栄養、情報、薬学といった多くの専門書が揃っています。カウンターでは貸出は勿論、レファレンスが中心で知識や経験が問われます。私はそういった知識がなく、その上大学図書館で働くのは初めてのため不安でした。レファレンスひとつ取ってみても利用者の質問に上手く答えられず歯がゆさを感じます。先輩方の利用者への気配りや心配りなど迅速な対応を見ると感心します。だからこそ、先生を始め学生からの質問も多く、利用しやすい図書館環境なのだろうと思いました。大学図書館に勤めて改めて公共図書館とは違う司書職の奥深さを実感しました。

これからも常に初心を忘れず、先輩方を見習い、利用者へ十分なサービスが出来るよう精進していきたいです。

◆大学図書館に勤務して

高崎健康福祉大学薬学部図書・資料室

丸山 英美

私は図書館で働いた経験がなく、毎日が戸惑う事ばかりでしたが、館長先生始め先輩方の支えがなければ図書館業務をこなせなかったと思います。図書館で務めてみて、仕事の大変さを改めて実感しました。特に利用者の質問に対して的確な答えをいかにわかりやすく伝えるかが、こんなにも難しいものなのかと思知らされました。

私が学生の頃、図書がどこに所蔵されているかわからないでいると、司書の方が優しく声を掛けてくれて、色々教えて頂きました。私も利用者が困っている時には力になりたいと思います。図書館が利用しやすいのは司書の方が利用者の立場になって考えているからだと思いました。私も利用

者の立場になって考えていきたいと思います。

今では仕事にも慣れ、周りに目を向ける事が出来るようになりました。これも館長先生始め先輩方にご指導して頂いたお陰だと思っています。

これからは、専門的な知識を身につけ、利用者の手助けが出来るように精一杯努力していきたいと思っています。

退職者

◆退職に思う

群馬松嶺福祉短期大学図書館

金井 義明

蔵書冊数3万冊に満たない、座席数84席の短大図書館を私は第2の職場として5年勤めてこの3月末に退職しました。利用対象者も少人数ですから、閲覧する学生も殆ど顔見知りとなります。図書館が校舎の2階の一角でもあることから、日に数度利用する学生もいました。ここで誇れることは一般開放が国内で最高に進んでいると思われることです。利用者に地域や身分等の制限を設けていません。福祉系ですから一般利用者の人数は多いとは言えませんが、よく利用されています。在職中には嬉しいことに国立情報学研究所の「電子化と公開の事業」に「群馬松嶺福祉短期大学紀要第6号2005」から公開することができたことです。また、医学中央雑誌にも掲載され始めました。教員の研究と業績の至らしめるところでした。しかし私立短大は時勢の変化に応じやすく、5年間に学科が当初3専攻であったが、今では2専攻となりました。館員も定員1名非常勤2名となりました（この中には館長は含まれません）。この先も変わっていくことが予想されます。

地域的な図書館間の協力については、群馬県大学図書館協議会の下に年々結束が強くなるのが実感され、素晴らしいことです。年ごとに企画される行事、そして相互協力。大規模な独立行政法人の大学から小規模な私立短期大学の図書館に到まで加盟しているので、図書館の状況がまちまちです。設置母体の条件が異なるのに良く機能していると思います。私は第1の職場が国立大学の図書館でしたので、このことをつよく感じています。

協議会に携わる方々の尽力に感謝します。

情報技術の発展は目覚ましいものがありますが、障害もなくすんなりと進んでいくものではないようです。私は40余年前に群馬大学図書館医学部分館に勤務しましたが、当時、カード目録は手書き、複製の必要なものはガリ版刷りでした。相互貸借は医学図書館協会が主に活動していたように思っています。資料が接写面のガラスに接触していない部分があると、虫食いとなって文字が抜け落ちている部分が出てきます。やむを得ず、そこに文字を書き込んだ複写を送付したこともありました。群馬大学には本館と2つの分館がありますが、本館だけが電算化をすすめていきました。しかし、医学部分館の図書係長は電算化に反対していました。分館はそれぞれの学部にも所属し、ほとんど独立していたのです。また、大学紛争時代には群大の図書館も占拠され一時機能の止まったこともありました。

私は、流れに半ば溺れ、自分で泳ぐことも出来ず、ただ流されていただけだったように感じます。

在職中お世話になりました皆さまに、この場を借りて、お礼申し上げます。

各種研究会・研修会

< 国立大学関係 >

- 9月 国立大学図書館協会シンポジウム
「図書館職員としてのキャリア形成を求めるあなたに 一望まれるキャリアパス制度をめざして」(東地区：東大 西地区：京大)
- 9月 学術情報流通改革ワークショップ
(電子ジャーナル・タスクフォース説明会も同日開催)
- 9.2-5 情報処理軽井沢セミナー (国際高等セミナーハウス)
- 11月 国公立大学図書館協力委員会シンポジウム (図書館総合展)
- 11.11-14 大学図書館職員短期研修 (東大)
- 11.19-21 学術情報リテラシー教育担当者研修 (NII)
- 11.26-28 ネットワークセキュリティ技術研修 (NII)
- 12.3-5 NACSIS-CAT/ILLワークショップ (NII)
- 12.17-19 ネットワーク管理基礎研修 (NII)

< 公立大学関係 >

- 9.4-5 平成20年度公立大学協会図書館協議会研修会
テーマ：大学図書館の魅力アップ術—学生の利用率向上を目指して (広島市立大学)
- 9.17 PULC 関西地区版元説明会 (大阪市立大学学術情報総合センター)
- 9.19 PULC 関東地区版元説明会 (明治大学)
- 9.18-19 平成20年度第94回全国図書館大会 兵庫大会
テーマ：はばたこう未来の図書館へ～元気な兵庫からの発信～ (神戸ポートピア・神戸学院大学ポートアイランドキャンパス)
- 11月 国公立大学図書館協力委員会シンポジウム (図書館総合展)

< 医学・薬学・看護大学関係 >

- 8.6-8 第15回医学図書館員基礎研修会 (順天堂大学)
テーマ：医学図書館員の基礎固め：必要とされるライブラリアンになるため
- 8.12 平成20年度第4回日本医学図書館協会理事会 (聖路加国際病院)
- 8.20 平成20年度第3回教育研究委員会 (東京厚生年金病院)
- 10.25 第5回日本看護図書館協会新人研修会 (戸田中央看護専門学校)
内容：蔵書構築／分類／目録／資料運用／相互貸借／データベース／演習
- 11.5-7 第15回医学図書館研究会・継続コース (関西医科大学)
テーマ：医歯薬系図書館が未来に志向するもの
継続コース
テーマ1：NBM(Narrative-based Medicine)と図書館の関わり
テーマ2：電子化出版物のアーカイビング
- 11.26-28 第10回図書館総合展／学術情報オープンサミット2008
JPLA/JMLA共催フォーラム (11/28) (パシフィコ横浜)

平成19年度第2回大学図書館研究会・群馬県図書館協会専門研修

— テーマ インターネット最前線と図書館サービス —

平成20年3月10日(月)、群馬大学を会場に開催された研究会では、昭和女子大学教授大串夏身氏による講演が行われ、公共図書館、盲学校図書館、高等学校図書館を含め50名の参加があった。氏には情報探索法、レファレンスサービス等に関する多くの著作があり、今回のテーマにピッタリの図書(「最新の技術と図書館サービス」(図書館の最前線 2) 青弓社, 2007.12)の編著者でもある。インターネット情報資源をいかに活用するかは現在、図書館にとって館種を越え避けて通れない喫緊の課題となっている。以下に講演レジュメ、参加者の声を掲載する。

◆インターネット最前線と図書館サービス

昭和女子大学 大串夏身

- | | | |
|--------|---|--|
| 0. | インターネットに関わるサービスの検討の視点 | サービス |
| 0-1. | 図書館の今後のあり方を検討する | 2-1. インターネット上の情報の検索
⇒文献 大串夏身『チャート式情報アクセスガイド』青弓社, 2006 |
| 0-1-1. | 新たな知識社会の到来とインターネット | 高 歙裕樹『デジタル情報資源の検索』増訂版 京都大学図書館情報学研究会, 2007 |
| 0-1-2. | 知識の創造システムの構築と図書館 | 伊藤民雄『インターネットで文献探索』日本図書館協会, 2007 |
| 0-1-3. | 知識創造の「場」としての図書館(公共図書館、大学図書館) | |
| 0-2. | インターネット上のサービスを把握する | 2-1-1. インターネット上の書誌情報などの横断検索 |
| 0-3. | 図書館サービスの方向に役立てる方法を検討する | 2-1-1-1. 都道府県立図書館の県内の図書館OPACの横断検索
2-1-1-2. 国立国会図書館提供の「PORTA国立国会図書館デジタルアーカイブポータル」
2-1-1-3. 実践女子大学図書館「実践女子大学DB横断検索」
2-1-1-4. 国立情報学研究所「GeNii 学術コンテンツ・ポータル」 |
| 0-4. | 新しい技術の評価と図書館サービス | 2-1-2. 出版情報の検索 |
| 0-4-1. | 新しいサービスが可能になる | 2-1-3. インターネット上のDBの検索 |
| 0-4-2. | 従来のサービスが効率的に提供できる | 2-2. インターネットを活用した情報発信
⇒文献 大串夏身編『新しい技術と図書館サービス』青弓社, 2007 |
| 0-4-3. | 政策的な課題などに積極的にこたえることができる | 2-2-1. 調査ノウハウの提供
国立国会図書館の「テーマ別調べ案内」 |
| 0-5. | インターネットサービス方針の策定
⇒文献『インターネット・ポリシー・ハンドブック—図書館で利用者に提供するとき考えるべきこと』マーク・スミス/根本彰 日本図書館協会, 2003 | 2-2-2. 調べ方の案内・パスファインダーのアップリンク集 ⇒ 私立大学図書館協会東地区 |
| 1. | インターネットの新しい段階 | |
| 2. | インターネットを活用した新たな図書館 | |

- 部会「パスファインダーバンク」
名古屋大学 資料別に用意「循環型社会」
とは何だろう？ 参照
愛知淑徳大学
都立中央図書館
- ★調べ方マニュアル(案内)・パスファインダーの作成・提供
公共図書館では地域の課題に関して作成
- ★特に大学図書館 学生の自主学習を支援するシステムの構築が必要
学術審議会『学術情報基盤の今後の在り方について』(2006年)の「II 学術情報基盤としての大学図書館の今後の整備の在り方について」
⇒文献「第4章 大学図書館のあり方に関して」(『図書館の可能性』青弓社, 2007 p.104-127)
大学図書館では、学科の教育内容、卒論のテーマなどについて作成。
- 2-2-3. 自習用ガイダンスソフトの提供 慶応大学日吉メディアセンター「KITIE」
- 2-2-4. 調べ学習のテーマの調べ方 長野県立長野図書館、札幌市立中央図書館
- 2-2-5. ブログを利用した情報発信 横芝光町立図書館
- 2-2-6. ポータルサイトの作成
科学技術振興機構、国立女性教育会館、法政大学大原社会問題研究所
- 2-3. 新たなSDIサービスの試み 東広島市立図書館
- 2-4. 電子メールを活用した質問回答サービス
- 2-5. デジタルレファレンスサービス
レファレンス質問回答事例データベース
例 国立国会図書館「レファレンス協同データベース」
チャットサービス
- 2-6. インターネットを活用した映像の配信
- 2-7. 図書館の「ホットスポット」化
- 2-8. 電子書籍の購入と貸出 昨年末、千代田
- 図書館ではじまる
- 2-9. デジタルアーカイブと検索
- 2-9-1. Googleの「図書館まるごとデータベース化」
- 2-9-2. Google・Amazonの新刊書の全文検索
- 2-9-3. 機関リポジトリ 国立情報学研究所 横断検索
- 2-9-4. オープンアクセスの進展 国立情報学研究所 CiNii 論文情報ナビゲータ
- 2-10. 音声によるOPACの検索
- 2-11. 図書館の相互貸借
- 2-12. そのほか
- 2-12-1. 図書館での新刊図書購入の取り次ぎ
- 2-12-2. 画像の検索
- 2-12-3. インターネット検索サービスの展開
地図、検索、子ども向けの検索エンジン
- 2-13. マイナスの要因 レファレンス質問の減少、来館者の減少
- 参 考
1. ICタグを活用したサービス
⇒文献 吉田直樹「ICタグと図書館」(『最新の技術と図書館サービス』p.64-92)
- 1-1. 貸出・返却(出納)等の効率化
- 1-1-1. 自動貸出機
- 1-1-2. 自動仕分機
- 1-1-3. 自動書庫
- 1-2. 盗難防止装置
- 1-3. 蔵書点検の効率化
- 1-4. 棚アンテナ 利用状況が分かる
- 1-5. 千代田区立千代田図書館の新書ワールド
2. 図書館の可能性について
⇒文献 大串夏身『図書館の可能性』青弓社, 2007
- ★第3の情報・知識革命の時代へ
★「図書館の可能性」は人間の可能性である。

大学図書館研究会に参加して

参加者からの声

共愛学園前橋国際大学 国際社会学部 国際社会学科 心理人間文化コース
専任講師 奥田雄一郎

本研修会では、昭和女子大学大串夏身教授に「インターネット最前線と図書館サービス」と題した講演をしていただいた。

その中でも特に興味深かったのはインターネットという技術を用いることによって、本学のような小規模大学においても、大規模大学と同様のサービスを、利用者の方々に提供できる可能性があるという点でした。

例えば、第一にWeb2.0と呼ばれる従来のWebサービスに比べ、よりユーザーが参加できるようにしたインタラクティブなサービスは、本学のような小規模大学において、限られたマンパワーでもより利用者個別のニーズに応えることができる可能性があるということ。第二に、情報のオープンアクセス化の波は、本学のように所蔵スペースが限られた大学においても、物理的な移動の制限をより少なくし、多くの利用者が本学にいながらにしてより多くの情報へとアクセスすることを可能にする。

また、このようなインターネットをすでに活用している例としては、私の研究室では研究室所蔵の蔵書はPC、あるいは携帯電話でそのタイトル、著者、出版社などが閲覧、検索可能となっている。そのことによって本学の学生たちは授業で紹介した本などに関心を持ち、研究室に訪れる機会にもなっている。

質疑応答の中で議論された「知識のストックの場所から知識の創造の場として、そしてさらには学生たちを発達させる場としての図書館」というコンセプトは、これからの図書館のあり方において非常に明確で意義深いコンセプトだと考えられた。

これからの図書館は、インターネットなどの新しいツールを用いることによって、従来の図書館の概念を越え、様々な「情報」、「機能」、そして「人」の集まる場としての図書館になっていくだろう。そのためには、図書館に携わる人々も自らがインターネットの技術を用いて、新たな価値を創造して行くことが求められる。

参加者からの声

群馬パース大学附属図書館
司書 佐藤駿介

3月10日に群馬大学にて行われました大学図書館研究会「インターネット最前線と図書館サービス」に参加させていただきました。近年インターネットの普及率が上がるにつれ図書館は来館者数、レファレンスが軒並み減少していると言われていの中で、大学図書館としてサービスやインターネットとの付き合い方をどのように行っていけばよいのか色々勉強したいという気持ちがあり、参加するに至りました。

まずは図書館の現状、今後の図書館の在り方、各図書館の取り組み例等の説明をしていただきました。中でも大学図書館の取り組みの例として、レファレンスサービスの充実、飲食もできるコミュニティの場を図書館内も設置する、学生ボランティアを促進する（ピラ作りや選書ツアー、図書館報作り等）、といったところは当館でも課題として思っていたところでしたので、今後の活動のためにも大変参考になる場所でした。

インターネットをうまく活用したものでは、探し方ガイドやパスファインダーをホームページ上に掲載する、といったものがお話にありました。後日各大学図書館のホームページを見てみたところ、とても工夫してされているところが多く、初めて図書館を利用する人でも分かるよう作成されているのが分かりました。当館でも今年度4月よりホームページをリニューアルしましたが、あまりに時間がなくパスファインダーを載せることができなかつたため、今後これらを参考に作成していきたいと思っています。

今回研究会に参加し、これまで当館でもインターネット社会の中での利用者減少を考え、様々な取り組みをしてきたつもりでしたが、「利用者が来る図書館」づくりのためまだまだ考えていかなくてはならないことを痛感しました。また最近では電子ジャーナルだけでなく図書を電子化した電子書籍も出てきており（公立図書館では実際に貸出しているところもある）、そういったことにも対応するスキルを身につける必要があると感じました。インターネット社会の中での新しい図書館サービス、今後の当館での活動も見えてきたような気がしました。今回の研究会で学んだ知識を役立てていきたいと思っています。

参加者からの声

東洋大学附属図書館板倉図書館
下山 祐亮

当館では、情報検索パソコンの設置を始めとして、様々なサービスを提供しています。しかしながら、利用者がそれらを十分に活用できているのか、疑問を持たずにはいられません。今回の講演を参考にして、当館の利用者サービスをさらに向上させるため、研究会に参加させていただきました。

今回の講演で、特に印象に残ったのは、図書館に求められる機能として、利用者と資料とを結びつけて、新たな知識を創造できる場所をマネジメントすること、ということでした。

今まで私は、図書館という場所は、静かな環境であることが当たり前であると考えていました。しかし、静かな環境を優先するあまり、利用者同士の交流を不可能なものにして、新たな知識の創造・発見を阻害してしまっただけでは、図書館としての機能を十分に果たしていないのではないかと反省するにいたりしました。その一方で、静かな図書館としての機能も必要であり、2つの相反する環境を作るにはどうしたらよいか、図書館を運営していく上での重要な課題となりました。

また、日頃カウンター業務を担当していて、資料の配架場所や貸出方法といった質問は、数多く受け付けています。しかし、レファレンスの受付はそれほど多いものとは言えず、ILL文献複写・相互貸借などの各種サービスの利用者も限定的であり、全体的な認知度は低いように感じています。さらに、データベースの利用もそれほど多いものとはいえません。いくら所蔵資料やサービスが充実していても、利用者にそれらを活用してもらわなければ、意味がありません。各種サービスから得られる情報と利用者とを結びつけ、活用してもらえよう、図書館が働きかけていくことの重要性を再認識させられました。情報検索のガイダンスを開催したり、利用者にとって明確なガイドブックを作成したりするなど、広報していく必要があると思います。そのためには、私たち図書館員がデータベースの活用方法をはじめ、情報収集ツールを研究し、精通していかなければならないということを痛感しました。

今回の研修会に参加させていただき、図書館の本来の役割を改めて認識することができたと共に、そのためには図書館員として何をすべきなのかを考えることができました。ありがとうございました。

参加者からの声

群馬県立前橋西高等学校図書館
高橋 伸江

高等学校図書館部会も平成18年度から群馬県図書館協会に加入させていただき、研修の機会が広がりました。今回、群馬大学を会場としての開催ということで、勤務校から地理的に近いことと、日常、司書として一人で仕事をしているので、より幅広い情報を得たいということもあって参加いたしました。

大学の研究会は高等学校と比べ、レベルも内容もかなりの違いがあるのではないかと思いつつも参加しましたが、高校図書館でも今後取り組むべき課題でした。

高校図書館のインターネットは、フィルターがかけられており、その点は安心して生徒に利用させることができます。しかし私自身、インターネットを始めコンピュータについて、まだまだ勉強不足ですので、今回の講演を拝聴し、学ぶことの多い研修になりました。

図書館の利用者や読書人口の減少については、高校での図書館活用指導が大学生や社会人の図書館活用能力に影響しているのではと思いつつも、改めて高校での教育が重要と感じ入った次第です。

高校でも図書館利用指導や読書指導を実施しているにもかかわらず、利用が減少傾向にあるのは、娯楽や学習の多様化と家庭のインターネットの普及等も一因と見られているようです。

図書とインターネット、両者をうまく使い分けて学習・研究して行くこと、図書館の空間としての新しい活用方法の模索が必要であり、今日の課題であると理解しました。

さらに、第3の情報・知識革命の時代にあって、電子書籍のインターネットによる貸出、ICチップによる自動貸出等々、日々めまぐるしく変化する図書館界について行くべく、今後も研修を積み重ねて行かねばと思いつつも、

また講演終了後は群大図書館を初めて見学し、新田家文書等貴重な資料を見せていただきました。

平成19年度第2回大学図書館研究会アンケート結果

<実施内容>

- ・ゼミでインターネットの利用方法について指導する機会があり、現在来年度用の資料を準備している最中です。膨大な情報量をもつインターネットの中で、使えるサービスを見つけ出すのはとても大変で資料作りに手間取っていましたが、今回様々なインターネット上のサービスを教えて頂きとても参考になりました。早速試してみ、自大学に合せたサービスを取捨選択し、ゼミの指導に反映させたいと思います。
- ・図書館の利用指導を行う上で、ものすごく役立つ情報を得ることができました。基礎ゼミや調べ学習を行う際にぜひ学生に教えてあげたいサイトも多く、もっともっとお話が聞きたくなりました。
- ・ネット社会において図書館のあり方について丁寧に説明していただき、とても勉強になりました。今日学んだ事を今後の業務の中で生かしていけるよう努力したいと思います。
- ・図書館の役割と同時に図書館に勤める職員の役割について考えさせられた。
- ・初めて知った情報も少なくなく、有意義な内容だった。紹介された事例の一つ一つについてもっと調べようと思う。
- ・大学を取り巻くインターネット環境の最新情報がうかがえて大変有意義だった。小さな図書館に持ち帰って考えてゆくには、大きな問題だと思った。
- ・大きな変革期にある図書館の今後を考える良い機会を与えていただきました。
- ・大変参考になるお話が聞けてよかったです。ありがとうございました。利用しやすい図書館にするために、インターネットを利用したサービスの必要性・重要性を感じてはいるものの、予算や人員の問題でなかなか進んでいないのが現状ですが、今日のお話を参考に学生を上手に利用するなどして検討していけたらと思います。
- ・具体的な話で参考にしていきたい。役に立ちそうな話でありがたかった。
- ・各大学での導入事例などがとても勉強になりました。また、これからの図書館のあり方、参加

の場としての図書館というのが非常に印象深かったです。ありがとうございました。

<その他気づいた点>

- ・出版社と図書館の関係について。
- ・後半、進行が急に早くなってしまったのが少し残念だった。
- ・テキストの電子化が進む中で、あとはそれを視聴するハードウェアが何となるかが、これから先のサービスにとって重要だと思います。PCでは起動が遅く、重く、携帯ではディスプレイが狭すぎる。何れかのハードウェアに落ち着けば爆発的に普及していくことでしょう。

<今後取り上げてほしいテーマ>

- ・今回の質疑応答でも話題にあがりましたが、学生の図書館離れ、本離れ、活字離れに対し、こういった対策を取ればよいのか、現状を踏まえて大きく取り上げていただきたい。
- ・今後も、もう一度同じテーマでお話が聞きたいと思いました。
- ・今回とりあげたサイトなどをもっと知りたいと思いました。意外と知らない便利なサイトがあると感じました。予算のない図書館でも行える（学生が家からでも行える）フリーのサイトが増えてきたことをとても感じました。
- ・利用者の求める図書館員
- ・学外利用者と図書館
- ・収蔵スペースと本のデジタル化



お知らせ

図書館ネットワーク研究部会

群馬県大学図書館協議会メーリングリストの再開について

平成18年9月からメールサーバとして運用していた群馬高専のサーバが、本年3月をもって廃止されたのに伴い、4月以後運用が中止されていたが、8月からは、代替サーバとして群馬大学のサーバを利用することにより再開の運びとなりました。今後、加盟館相互の連絡に、また情報交換等にご活用ください。

なお、利用にあたっては、以下の相違点にご注意ください。

	変更項目	変更前 (旧)	変更後 (新)
1	アドレス	g-dtk@lib.gunma-ct.ac.jp	g-dtk@lib.gunma-u.ac.jp
2	連絡先	群馬高専 堀口純夫 ml@lib.gunma-ct.ac.jp	群馬大学 堀口純夫 s-horigu@jimu.gunma-u.ac.jp
3	添付ファイル容量	本文含め最大1MB	本文含め最大10MB

トピックス

育英短期大学図書館

1. 短期大学基準協会第三者評価認定

本学は群馬県内の短期大学では最初となる、短期大学基準協会による平成19年度第三者評価を受け、短期大学評価基準を充たしているとして、平成20年3月19日付で適格と認定されました。図書館を含めた評価結果の詳細は、短期大学基準協会のホームページでご覧いただけます。(平成19年度は全国51の短期大学が実施)

URL : http://www.jaca.or.jp/evaluation/evaluation_h19.html

2. 貸出バッグの用意

50cm前後の大型絵本や紙芝居等の貸出の際、バッグがほしいとの学生の声を受け、大型の貸出用バッグを作成、平成20年度より使用しました。

その結果、特に保育学科の学生の実習に向けての貸出で大活躍！例年は半分以上残っていた大型絵本が、今年の実習前には、ほとんど貸出に出てしまいました。大型の資料はもちろんのこと、貸出冊数が多くなる時など、今後も貸出バッグは活躍してくれそうです。



貸出用バッグ

編集後記

今号では、新館紹介として桐生大学図書館、高崎健康福祉大学薬学部図書・資料室を取り上げ、また、育英短期大学図書館からは第三者評価の実施報告などがありました。大学運営も厳しい局面にある昨今、今号の表紙に採用しました本協議会が培ってきた加盟23大学29館の環(わ)、創設当時に立ち戻って今一度見つめ直す時なのではないでしょうか。